

# 保護のための国際的な連携をめざして

## ～ハチクマの渡りと生態に関する国際的な研究集会～

堀田 昌伸

皆さん、ハチクマという猛きん類をご存じですか。その名が示すとおり、ハチを食べる習性があります。日本には5月頃渡ってきて、子育てをして、秋になると東南アジアに渡って冬を過ごします。近年、衛星追跡によりその渡り経路や越冬地が判明したり、地域によっては個体数が減少傾向にあるなど、その動向が注目されている鳥です。

ハチクマもそうですが、鳥の場合、渡りをする種類が数多くいます。かれらの多くは国境を越え、子育てする国と冬を過ごす国が異なります。そのため、かれらの保護・保全がうまく図れないという状況があります。

2009年11月5日から9日にかけて台湾で、ハチクマの調査研究や保護保全をしている人が一同に会して、現在ハチクマについてどこでどのような研究がなされ、どこまでわかってきているのかを共有する集まりがありました。6日の朝から7日の昼まで、ハチクマの形態や生態、渡りなどさまざまなことに

ついて約20題の発表があり、約70名ほどの方が参加していました。研究集会終了後、みんなでエクスカージョンに出かけ、ハチクマの利用する養蜂場や営巣地を見たりしました。短い時間でしたが、内容が濃く有意義なミーティングでした。



エクスカージョンで、ハチクマが訪れる養蜂場で現地の人々の説明を聞く参加者たち。

# 海外初開催で共同シンポ！

## ～日本哺乳類学会台北大会～

岸元 良輔

2009年度の日本哺乳類学会大会は、国立台湾大学で開催されました。海外での開催は初めてのことで、日本の学会を台湾で開催するのは、共同シンポジウムを企画するなどにより、お互いに刺激し合うことが目的です。11月21～24日に開催された学会は、約250名の参加がありました。日本台湾共同のシンポジウムが2つ、自由集会在10、口頭発表が43、ポスター発表が140余りと、非常に盛りだくさんの内容でした。

シンポジウムの1つは、「東南アジアの哺乳類保全の現状と課題—地域との合意形成と協働—」で、野生動物を保全するために地域の住民とどのように合意形成をはかり連携するかをテーマに話し合われました。日本ではツキノワグマの問題、台湾では先住民の狩猟の問題などが話題提供されました。

もう1つのシンポジウムは「東アジアにおける哺乳類の動物地理学—島嶼動物相の理解—」で、大陸とつながったり離れたってきた日本や台湾の哺乳類

相の話は、とても興味深いものがありました。台湾は九州よりも小さな島であるにも関わらず、最高峰は富士山よりも高く、3000m級の山々が日本よりも多くあります。それだけに、生物多様性が非常に豊かな国といえます。



台湾と日本は共通する種が多い。写真は台湾カモシカ(飼育)。ニホンカモシカと非常に近縁で、同種とみなす研究者もいます。